

J・ホールディングス解散、4温浴施設集約で議論 温浴施設集約は関係団体、地元住民と充分話し合いを

産業観光交流部が所管する第三セクターの経営問題についての議論が10日の市議会文教経済常任委員会で行われました。

J・ホールディングスについては、傘下の事業会社の2社が解散、1社が株式譲渡のめどがつくなかで、残る4社をどうするか、そもそもJ・ホールディングス本体をどうするかが問われています。市は今回、「産業観光交流部が所管する第三セクター等の推進について」という文書を示し、①柿崎総合開発(株)、②大湯地域活性化センター、③(株)ゆつたりの郷、黒倉ふるさと振興(株)の4社は、吸収合併するなど事業会社として集約化を図る、④J・ホールディングス(株)は、事業会社の集約化後、令和4年度末をめどに解散する、⑤その後、温浴宿泊施設の取組方向の検討に合わせ、集約化後の事業会社の事業を順次、整理する、などの方針を明らかにしました。

委員会では上野議員等が、「4社を統合して、どういった経営形態となるのか」「よろうとしていることはJ・ホールディングス発足のときと同じではないか。いままでのJ・ホールディングスの総括が必要ではないか。中身が変わらないと同じ失敗が生まれる」「市が100%株式を所有した経営を前面に出すなら、それなりの人材も必要だ」などと発言しました。

これに対して市側は、「4社については吸収合併を基本に進めたいと思っていますが、見直しもあり得る」「J・ホールディングスについては平成30年に一度検証し、令和元年度に第三セクターの方向性を示してきた」「集約化により、関連部分が統合され、固定経費は必ず削減される。新型コロナウイルスの問題があつて、各社とも人員はぎりぎりまで運営しているが、今後は人員の流動化の効果も出る」などと答えていました。



【ヤマツツジ】 ツツジ科の半落葉低木。漢字で「山躑躅」と書きます。日本の野生ツツジの代表格、どこへ行っても見ることが出来ます。花期は4月～6月、赤、朱赤色などの花を咲かせます。花の中には地表をほうように咲いているものもあります。花言葉は「燃える思い」「努力」「訓練」です。写真は6月2日、吉川区代石にて撮影しました。



地域計画も策定すべきだ

総務常任委員会で13日、第7次総合計画策定に関して議論しました。7次総は、「未来志向による計画づくり」と「市民参画による計画づくり」がポイントとのこと。

私は、「未来志向による計画づくりはこれまでの計画づくりにならない手法だ。」2040年の上越市のありたい姿はSDGsの目標を意識したものとなるのか」「第6次総合計画の評

市側の説明を聴き、集約化についてはもっと具体的な数字も出してしっかりと議論ができるようにしてほしいなと思います。今回の方針で集約化される会社については合併前にそれぞれの地域で議論され、地域活性化をめざす取組の中で誕生してきた歴史があります。今後、関係団体だけでなく、関係地区住民の声も充分すぎるほど充分聴いて対応してもらいたいものです。



価、検証の中で、防災については原子力災害の記述がない。また一般災害も最悪レベルのものがない。また「ありたい姿」の記述にしてほしい。農林水産業で後継者不足や農業所得の低下が問題となっているが国政による影響が大きい。国政との関連の中で検証すべきだ」「市議会は先般行った地域自治に関する提言の中で、地域計画の策定の必要性についてふれているが地域計画づくりをすべき」などと質問しました。

市は防災や農林水産業に関する私の指摘に検討を約束しました。また、地域計画に関しては議会と協議することに前向きでした。

はしづめ法一の
 活動レポート

No.2065 2022.6.19
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七二回

カエルの変態

このところ、近くの田んぼでオタマジャクシの観察を続けています。

きっかけは五月半ば頃のことでした。田んぼの中の数十匹のオタマジャクシを見ていたうちに、ふと思ったのです。「このオタマジャクシたちは、いまは水中生活をしているが、そのうち、水中だけでなく、陸に上がっても生活できるようになる。ならば、その成長過程を見てみたい」と。

私は、子どもの頃からオタマジャクシを見てきました。雪解けからしばらく経って、田んぼの一角にカエルの卵がかたまつて浮かんできたりすると、それにさわってみたり、手ですくい上げてみたりして遊んだものです。

田植えの頃になれば、水田の水の中をすいすいと動き回るオタマジャクシの姿も見えてきました。泳ぐ姿はまさに自由で、楽しそうに見えました。

でも、その先となると、よく分からないう。分かってきているのは、小さなカエルと違って道路上にびっぴ出てくる姿、さらに大きくなって草むらに隠れる姿くらいなもので、その途中の変化についてはまったく見てこなかったような気がするのです。

水中だけの生活から地上へ移動するとなると、地上でも動けるように体が変わらなければなりません。呼吸方法もエラ呼吸から肺呼吸へと変化していくことになります。いったい、オタマジャクシの体はどうなっていくのか。

その答えは、突然、やってきました。

五月中旬のある朝のこと、それまで、数匹が泳いでいた田んぼの場所からオタマジャクシの姿が消えていたのです。「これは何かあったに違いない」とそう思って、その周辺の水たまりを探しました。

数分後、少し離れたところでオタマジャクシを数匹、確認することができました。でも、様子が何となくおかしい。オタマ

ジャクシの頭がいつもより大きく見えたのです。そして、体の側面には白っぽい手足が見えました。おお、こんなふうになるのかあ。七二歳にもなって初めて見た手足のついたオタマジャクシの姿、見ていてうれしくなりました。

こうしたオタマジャクシはその周辺に何匹もいました。水溜まりで泳いでいるオタマジャクシを見たら、よりハッキリと確認できました。頭と胴体部分が区別できません。お尻の部分からは長いしっぽもまだついていました。

その数日後、今度は別の田んぼで体長がわずかに一・五センチほどの小さなカエルを見つけてきました。一匹が目に入ってもまもなく、他にも一匹二匹と姿を確認できました。

この小さなカエル、体の色はオタマジャクシの時の色ではなく、薄緑色になっていました。カエルたちは水たまりに入ったり、稲のそばに行ったりしていました。

注目したのはしっぽがまだついていたことです。しっぽは水中はいいにしても、陸上では邪魔になるはずですよ。これじゃ跳びはねるのは無理だな、そう思っていたら、水たまりの中にいた一匹が田んぼから私がいらない方を向き、びよんびよんと跳ねたのです。それもしっぽはまったく問題ないよといった感じで飛び続けたのです。私は、しっぽのついたカエルが跳ねる姿を初めて見て、びっくりしました。この姿は記録しておかなきゃ、そう思って、スマホを使って動画撮影もしました。

オタマジャクシから普通のカエルの体になるように、動物が体の形を変えることを変態といいます。今回はその一部を見ることできました。それだけでもうれしかったのですが、後ろ足と前足はどちらが先か、しっぽはこの先どうなるかなど気になることはまだいっぱいあります。さて、そろりと田んぼに行かなきゃ。

富岡惣一郎の世界を楽しむ

ニュースフラッシュ

11日の午後、三和区川浦のギャラリー 葵楽庵に行き、「富岡惣一郎の世界展・VI」を楽しみました。

富岡惣一郎の作品は市役所内にいくつも展示されていますので、雪の白の世界の魅力は体が覚えています。でもカラーの世界があるとは……。花火やサクラなどの作品を観て感激しました。

私がお邪魔した時間帯には長野県から画家の女性の方たちが鑑賞しておられました。飯野ケイさんやこの人たちから、富岡惣一郎の取材の実際、世界的な人気、画法などいろいろな話を聞くことができました。私にとっては、勉強になることばかりで、幸運でした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月8日(水)	6月15日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.040	0.043
名立分遣所	0.060	0.063
高士分遣所	0.050	0.053